



TITLE:

京都大学図書館機構概要 2017(日本語版_Japanese version)

AUTHOR(S):

CITATION:

京都大学図書館機構概要 2017. 2016: 1-14

ISSUE DATE:

2016-11

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/217680>

RIGHT:



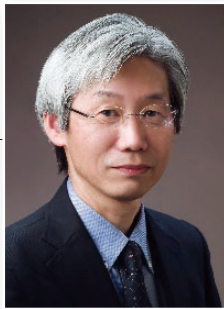
京都大学 図書館機構概要





CONTENTS

図書館機構長挨拶	2
附属図書館及び図書館機構の沿革	3
歴代図書館機構長等	3
京都大学図書館機構の基本理念と目標	4
京都大学図書館機構将来構想	4
図書館機構の構成	5
図書館機構の主な事業	7
機構案内ウェブページ	
コレクションの構築	
利用者支援	
知的成果の蓄積・発信	
貴重書の修復	
主要コレクション	11
Ⅰ. 附属図書館	
Ⅱ. 部局図書館・室	
統　計（平成27年度）	14



京都大学図書館機構長・附属図書館長

引原 隆士

図書館機構長挨拶

1897（明治30）年の創立以来、自由の学風の下、卓越した知の創造と継承を担って来た京都大学において、その教育・研究活動を支えて来た京都大学附属図書館は、大学創立に遅れること2年半後（1899（明治32）年）に創設されました。

附属図書館は、京都大学の教育に関する基本理念である「対話を根幹とした自学自習」を支え、知的財産の蓄積や学術情報の創造を支える根幹となって来ました。一方、新しい部局・教室等の設立に伴い、それぞれが独自に図書館・室を設け、部局の教育・研究に不可欠な資料を収集・提供する場を築いて来ました。京都大学の図書館は、これらの集合体として機能を発展させ、現在の蔵書総数は約691万冊に達し、国立国会図書館、東京大学に次いで全国で3番目に位置する図書館となっています。さらには、国宝1点（9冊）、重要文化財41点（172冊および468枚）の貴重資料も所蔵しています。

2004（平成16）年の国立大学法人化に伴い組織や制度が変化し、附属図書館を含め全学の部局図書館・室は2005（平成17）年4月に設置された京都大学図書館機構のネットワークの上に配置されることになりました。冊子体としての図書だけでなく、リアルタイムで進展する科学技術の教育・研究活動に無くてはならない電子ジャーナル、データベース、電子書籍等を、図書館機構の調整のもと、学術インフラとして購読・利用する環境を整えております。電子化の流れは、百年を越える京都大学における図書館の歴史の中心であった図書の集積に基づく図書館の機能と環境を大きく変えました。電子情報の増加により、大学図書館から利用者の足が遠のくのではないかと懸念もありましたが、現在では大学図書館は学びの場としての機能が世界的に見直されて、より積極的な教育を指向するアクティブ・ラーニングエリアとしてラーニング・コモンズを開設するなど、絶え間ない変革を行っています。今後、京都大学図書館機構は、2009（平成21）年の将来構想において明らかにしたエリア連携図書館による全学機能の分担などを検討しつつ、より利用者の視点に立って教育・研究を支える運営を行い、施設の整備や環境改善を進める責務を果たして行かねばなりません。

現在、大学図書館は大学の学術成果を世界に発信する窓口に変化することが火急の課題となっています。京都大学図書館機構は、これまでも大学発の学術資料を「京都大学学術情報リポジトリ KURENAI」として公開することを積極的に行い、2013（平成25）年4月には文部科学省の学位規則改定に対応し、原則、全ての博士学位論文を電子公開することにしました。また、京都大学は2015（平成27）年4月に「京都大学オープンアクセス方針」を採択し、京都大学の教員が生み出した学術論文等の研究成果をKURENAIによりインターネット上で原則公開することを、教員の義務としました。研究成果をオープンアクセスとすることは、研究者間のコラボレーションを促進し、研究分野を超えた新たな知の創出に道を開く大きな力となると考えられます。同時に、学術研究に従事する者が社会に対して果たすべき説明責任を明確にします。このような大学の知の発信活動を積極的に支えて行くことが、図書館機構の重要な機能であると考えています。2016（平成28）年度からは「京都大学オープンアクセス方針」に基づく学術論文の収集と発信を加速させるとともに、長年継続してきた貴重な学術資料の電子化と公開をさらに発展させる事業として6年間、第三期重点戦略アクションプランにてオープンアクセス推進事業を推進して行きます。図書館機構は、時代の変化に応じて機能を見直しながら、京都大学にふさわしい大学図書館ネットワークの構築に向けた努力を続けて行きたいと存じます。皆様のご理解とご協力を心よりお願いいたします。

附属図書館及び図書館機構の沿革

明治	30(1897)年	6月	京都帝国大学創立、附属図書館設置
	32(1899)年	12月	閲覧室開室（11日。この日を附属図書館創立記念日とする。）
	41(1908)年	12月	「附属図書館商議会規程」制定
昭和	22(1947)年	9月	京都大学附属図書館と改称
	23(1948)年	2月	附属図書館（第二代）竣工
	36(1961)年	3月	「附属図書館60年史」刊行
	39(1964)年	9月	館報『静脩』創刊
	58(1983)年	10月	附属図書館（第三代：現行）竣工
	59(1984)年	4月	閲覧システム導入（業務のコンピュータ化開始）
	60(1985)年	1月	バックナンバーセンター（BNC）開設
		4月	調査研究室設置（1996年「研究開発室」に改組）
		6月	NACSIS-CAT（目録システム）サービスに参加
		6月	附属図書館が理工系外国雑誌センター館に指定
平成	62(1987)年	6月	附属図書館が理工系外国雑誌センター館に指定
	2(1990)年	10月	OPAC運用開始
	4(1992)年	4月	NACSIS-ILLサービスに参加
	8(1996)年	4月	研究開発室発足（調査研究室を改組）
		6月	『今昔物語集（鈴鹿本）』国宝に指定
	10(1998)年	1月	電子図書館システム運用開始
		4月	全学共通科目「情報探索入門」（提供部局：附属図書館）開始（以後、毎年開催）
	11(1999)年	11月	附属図書館創立百周年記念式典
	12(2000)年	4月	附属図書館宇治分館発足
	16(2004)年	4月	京都大学図書館協議会発足
			（「附属図書館商議会」を廃し、「図書館協議会」と「附属図書館運営委員会」に機能分割）
	17(2005)年	3月	「京都大学における全学の図書館機能に関する規程」の制定
		4月	京都大学図書館機構発足
	18(2006)年	5月	学内デリバリー・サービス運用開始（2007年7月から専用便へ移行）
		6月	学術情報リポジトリ試験公開（10月から正式公開）
	19(2007)年	3月	電子ジャーナル・データベース認証システム公開テスト開始（4月から本運用）
			「京都大学図書館機構の基本理念と目標」制定
	20(2008)年	4月	電子ジャーナル経費の共通経費化実施
	21(2009)年	1月	研究開発室に専任准教授配置
			附属図書館に学習室24を設置
		6月	キャンパス間返送サービス開始
		12月	「京都大学図書館機構将来構想」策定
	23(2011)年	10月	「京都大学図書館機構規程」の制定（「京都大学における全学の図書館機構に関する規程」の改正）
	25(2013)年	10月	全学共通科目「情報探索入門」を「学術情報リテラシー入門：図書館とWeb情報の活用」に科目名変更
			文献取り寄せサービスEDDSサービス施行開始（4月から本運用）
	26(2014)年	4月	附属図書館にラーニング・コモンズ等を設置
	27(2015)年	2月	附属図書館が所蔵する韓国古文献（韓本）について大韓民国の高麗大学校民族文化研究院および人文科学研究所と事業協定書を締結（期間：3年4ヶ月）
		3月	附属図書館にてメディア・コモンズ、学習室24等を改修
		4月	京都大学オープンアクセス方針を採択
		10月	全学共通科目「学術情報リテラシー入門：図書館とWeb情報の活用」を「大学図書館の活用と情報探索」に科目名変更
	28(2016)年	2月	「京都大学図書館機構将来構想」を改定
		4月	附属図書館事務組織改組
			第三期中期重点戦略アクションプラン「オープンアクセス推進事業」の開始（期間：6年）
			「富士川文庫の修復と電子化（概算要求採択事業）」の実施

歴代図書館機構長等

●図書館機構長（附属図書館長を兼ねる）

	氏 名	就 任 ～ 退 任
初 代	大西有三（工学）	平成17年 4月 1日 ～ 平成20年 9月30日
第2代	大西有三（事務取扱）	平成20年10月 1日 ～ 平成20年10月31日
第3代	藤井譲治（文学）	平成20年11月 1日 ～ 平成23年 3月31日
第4代	林 信夫（法学）	平成23年 4月 1日 ～ 平成24年 9月30日
	引原隆士（工学）	平成24年10月 1日 ～

●図書館機構副機構長

	氏 名	就 任 ～ 退 任
初 代	森棟公夫（経済）	平成17年 6月 1日 ～ 平成18年 3月31日
第2代	岡田知弘（経済）	平成18年 4月 1日 ～ 平成20年 9月30日
第3代	岡田知弘（経済）	平成20年12月16日 ～ 平成23年 3月31日
第4代	引原隆士（工学）	平成23年 4月 1日 ～ 平成24年 9月30日
第5代	寺田浩明（法学）	平成24年10月 1日 ～ 平成26年 9月30日
第6代	藤井秀樹（経済）	平成26年10月 1日 ～ 平成28年 9月30日
第7代	松井啓之（経営管理）	平成28年11月 1日 ～

京都大学図書館機構の基本理念と目標

京都大学図書館機構は、京都大学の基本理念に基づき、世界最高水準の教育・研究拠点に相応しい学術情報基盤としての役割を担うことを使命とする。将来にわたって、京都大学における教育・研究活動を支援し、かつ国内外の学術コミュニティに貢献するために、人類の知的資産である学術情報資源や新たに生み出される知的成果を不断に収集、整理、保存し、関連する情報を発信するとともに、常に最上質の先進的情報サービスを研究開発し、提供する。

そのため、京都大学図書館機構は以下の目標の実現をめざす。

- | | |
|--|--|
| 1 京都大学図書館機構は、全学の図書館機能を十全に発揮して教育・研究を支援するために、学生・教職員のニーズを把握し、それに応えることを最優先する。 | 5 学術情報活用のために質の高い利用者支援システムを構築する。 |
| 2 学術情報基盤としてのコレクションおよび情報サービス体制を構築するために、学術情報を適切に選定、収集、整理し、必要な研究開発を行い、それらへの最善のアクセスを提供する。 | 6 図書館利用者が学術情報を有効かつ快適に活用できるように、全ての図書館スタッフのスキルおよびモチベーションの向上と、設備、施設の充実を図る。 |
| 3 京都大学が日々創造する世界的に卓越した知的成果の蓄積・発信を行う。 | 7 京都大学図書館機構を構成する組織は、相互に、また関連する学内組織との間の協力関係を強化する。 |
| 4 京都大学が保有する人類の知的資産を将来にわたって利用できるような保存管理体制を整備する。 | 8 国内外の図書館と連携し、相互協力するとともに、社会と地域に貢献する。 |

京都大学図書館機構将来構想

将来構想は、機構の基本理念と目標に則り、おおよそ10年後の京都大学の図書館のあり方を展望し、事業目標を明らかにすることを目的に、平成21（2009）年12月に図書館協議会にて承認されました。また、平成28（2016）年2月には当初策定以降の図書館をめぐる環境変化を確認し、到達が不十分な事項と今後実現すべき課題を明確にした上で、現況に対応した構想に改定しました。

●京都大学図書館機構将来構想（平成28（2016）年2月改定）

<http://www.kulib.kyoto-u.ac.jp/modules/about/content/plan20160218.pdf>

◆ 4つの基本目標

1. 全学図書館ネットワークの整備を図る
2. 図書系職員の力量の向上を図り、連携体制を強化する
3. 図書財源を安定的に確保し、系統的なコレクションを構築する
4. 図書館施設を量的・質的に整備する

◆ 今後4年間の事業目標（平成28～31年度）

1. 学術情報資源の整備：予算確保と蔵書構築
2. 図書館サービスの充実：全学図書館ネットワークの整備
3. 知的成果の発信：学術情報リポジトリの運営
4. 知的資産の保存と活用：資料の修復・電子化の推進と保存機能の整備
5. 利用者の支援：システムによる支援と人的支援
6. 人的資源の整備：図書系職員の育成と連携強化
7. 組織力の強化：図書館機構の機能充実と相互協力
8. 対外活動の推進：社会貢献と他機関との交流

◆ 第3期中期目標・中期計画（平成28～33年度）

第三期中期目標期間について大学が策定した計画に基づき、関連事業を推進します。

- ◆教育プログラムの特性に応じた資料収集を行うことにより、図書館の蔵書、電子ジャーナル・データベースを充実させる。また、各キャンパスの特徴に応じた図書館の整備及び機能向上を行う。
- ◆電子ジャーナル・データベースの適切な選定・収集、京都大学学術情報リポジトリ KURENAI や京都大学研究資源アーカイブのコンテンツ登録・発信の推進、学術標本資料データベースの作成等により、附属図書館や総合博物館等における学術・情報資源を充実させる。

●国立大学法人京都大学 中期目標（平成28（2016）年3月1日文科科学大臣提示）

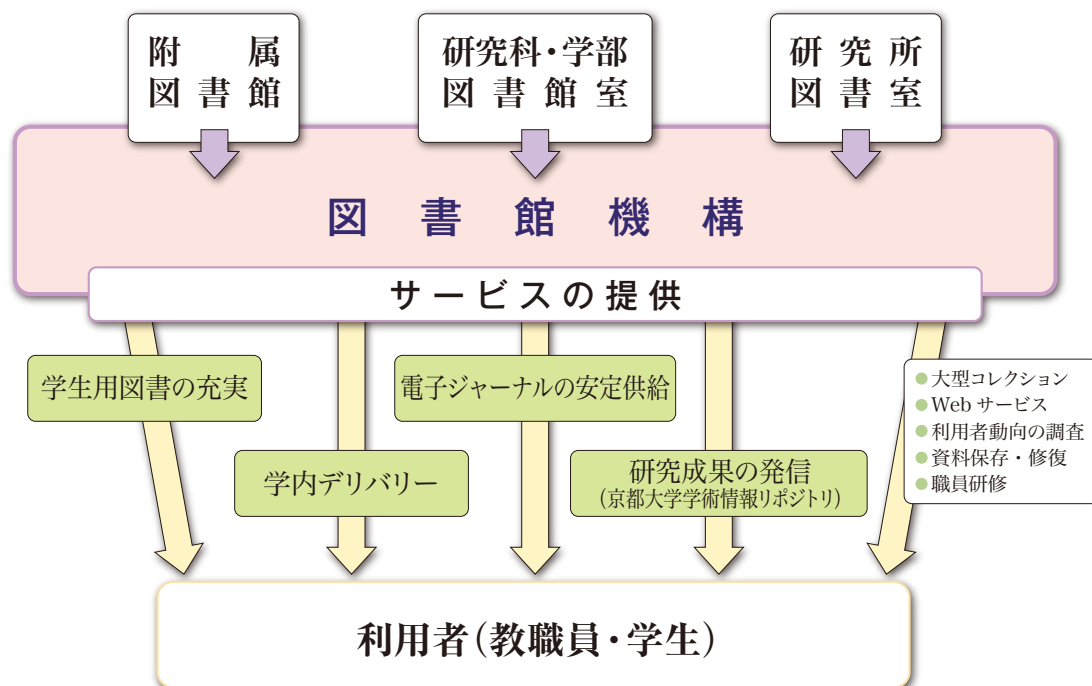
http://www.kyoto-u.ac.jp/ja/about/operation/medium_target/documents/2-02.pdf



図書館機構の構成

京都大学には、附属図書館をはじめとして約50の図書館・室があり、それぞれの図書館・室が分野に合わせた図書や雑誌を収集・整理し、快適な学習環境の整備に努めています。

京都大学図書館機構は、個々の図書館・室では解決を図れない問題や、複数の部局図書館・室間の調整が必要な課題を解決するための総合的・合理的な全学協調体制として、平成17（2005）年4月に発足しました。



吉田キャンパス

本部構内

- 01 附属図書館
- 04 文学研究科図書館
- 04 文・学術雑誌閲覧室
- 05 教育学研究科・教育学部図書室
- 06 法学部図書室
- 07 経済学研究科・経済学部図書室
- 08 経・経済資料センター
- 30 工学研究科図書掛
- 31 工・工業化学科図書室
- 32 工・電気系図書室（吉田）
- 33 工・吉田建築系図書室
- 34 工・地球工学科図書室
- 35 工・吉田物理系図書室
- 53 人文科学研究所図書室
- 55 エネルギー科学研究科図書室
- 56 情報学研究科図書室
- 57 地球環境学学舎図書室
- 59 環境科学センター図書資料室
- 63 経済研究所図書室
- 71 アジア・アフリカ地域研究
研究科アジア専攻図書室

北部構内

- 10 理学部中央図書室
- 11 理・数学教室図書室
- 12 理・物理学教室図書室
- 13 理・宇宙物理学教室図書室
- 14 理・地球惑星科学専攻図書室
- 16 理・化学図書室
- 17 理・生物科学図書室
- 51 農学研究科・農学部図書室
- 52 農・生物資源経済学専攻図書室
- 54 東アジア人文情報学研究センター図書室
- 61 基礎物理学研究所図書室
- 62 数理解析研究所図書室
- 84 フィールド科学教育研究センター森林系図書室

吉田南構内

- 03 吉田南総合図書館

医学部・薬学部・病院構内

- 21 医学図書館
- 22 医・人間健康科学系図書室(医学図書館分室)
- 23 薬学研究科・薬学部図書室
- 71 アジア・アフリカ地域研究
研究科アフリカ専攻図書室
- 72 東南アジア研究所図書室
- 73 地域研究統合情報センター図書室

桂キャンパス

- 41 工・化学系図書室
- 42 工・電気系図書室（桂）
- 43 工・桂建築系図書室
- 44 工・地球系図書室
- 45 工・桂物理系図書室

宇治キャンパス

- 02 附属図書館宇治分館

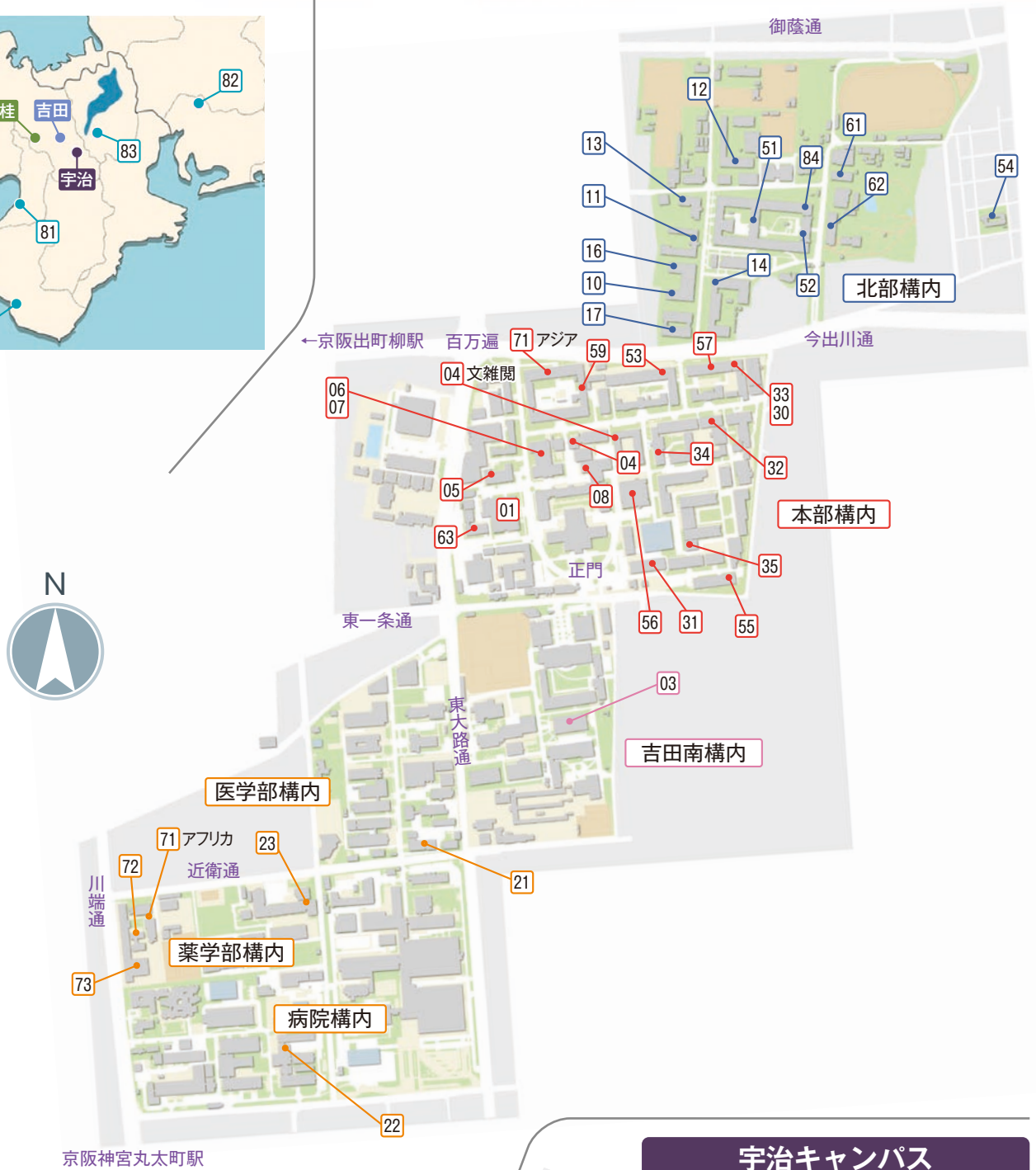
その他のキャンパス

- 81 原子炉実験所図書室
- 82 霊長類研究所図書室
- 83 生態学研究センター図書室
- 85 フィールド科学教育研究センター
瀬戸臨海実験所図書室

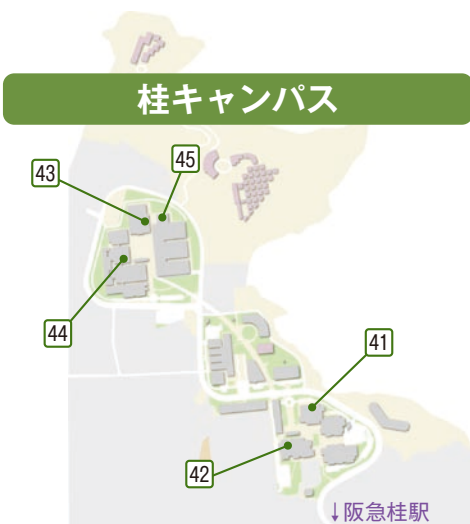
その他のキャンパス



吉田キャンパス



桂キャンパス



宇治キャンパス



機構案内ウェブページ

●図書館機構ウェブサイト

<http://www.kulib.kyoto-u.ac.jp/>



●各種問い合わせフォーム

<https://www.kulib.kyoto-u.ac.jp/form/14057>



- 図書館機構ウェブサイトへのご意見・ご要望など
- 図書館機構および附属図書館に関するご意見など
- 参考調査申し込み：求めている文献が見つからないときや、学習・研究の中でどのような資料を利用すればよいのかわからないときなどに、図書館員がアドバイスするサービスへのお申し込み
- 電子ジャーナル・データベースに関するお問い合わせ
- 蔵書検索 (KULINE) に関するお問い合わせ

●図書館・室一覧

<http://www.kulib.kyoto-u.ac.jp/newdb?typeid=3>



- 図書館・室の詳細情報、ウェブサイト、開館日程表および所在地図へのリンク集

●図書館のご利用全般については図書館機構サイトのサービス案内をご覧ください。

<http://www.kulib.kyoto-u.ac.jp/service/12705>



コレクションの構築

◆電子ジャーナルの安定供給

電子ジャーナルは、冊子体の学術雑誌に代り、今や研究のライフラインとして必要不可欠な情報源になっています。全学で利用できる電子ジャーナル（外国雑誌）は、平成28（2016）年度現在、有料のもので約38,000タイトルに上っています。無料公開のオープンアクセスジャーナルを含めて、京都大学で利用可能な電子ジャーナル全点リストをホームページに掲載し、有効な活用を図っています。

電子ジャーナルに対する需要は今後も増大することが見込まれますが、購読料は年々値上がりしており、そのために必要な経費の確保が課題となっています。図書館機構では他大学の図書館と協力しつつ状況改善に努力しています。

●電子ジャーナルタイトルリスト

<http://www.kulib.kyoto-u.ac.jp/erdb/13502>



●問い合わせ

<https://www.kulib.kyoto-u.ac.jp/form/14106>



◆大型コレクションの整備

大型コレクションの整備は、部局単独で購入することが困難で、かつ学内外の共同利用にふさわしい資料を収集することを目的に、図書館機構が各部局に購入希望調査をし、基盤強化経費（全学機構運営基盤経費）の配分を受けて行っている事業です。

本事業は、文部科学省によって平成14（2002）年度まで行われていたものについて、その内容の重要性に鑑み、本学独自に事業を行っています。

●大型コレクションリストは下記URLをご覧ください。

<http://www.kulib.kyoto-u.ac.jp/collections/12557>



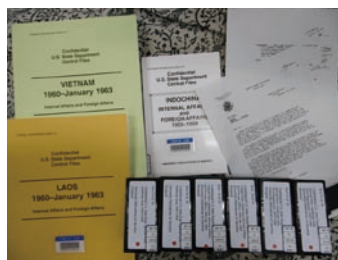
●平成27（2015）年度購入資料

●マイクロフィルム

「戦後を中心とする東南アジア各国の国内事情・外交事情－米国国立公文書館所蔵・国務省機密文書」（東南アジア研究所所蔵）

●オンラインデータベース

「The Economist Historical Archive, 1843-2011」



利用者支援

◆ 学習支援のための施設・設備

全学の図書館・室では、京都大学の教育に関する基本理念「対話を根幹とした自学自習」と共鳴する、グループワーク等のアクティブな学習を支援するためのスペースほか、多様な学習の形態や学びのスタイルに合わせたスペースを提供しています。

特に附属図書館設置のラーニング・コモンズは、これまでの図書館には無かった「対話」に主眼をおいた施設で、組換え自由な机や移動式のホワイトボード、プロジェクター、電子黒板等を備えており、充実した学習支援機能を持ちます。

この空間は、全体のデザイン、什器選定からサイン制作までの

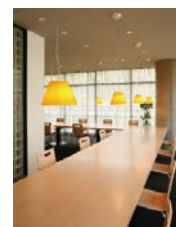
全ての段階において、本学学生、教員、および附属図書館職員など多様な人々が集い、相互の知識や経験、知恵や感性等を持ち寄って協働することにより、設計されました。このことは、まさにこの空間のコンセプトである「集い」と「創発」により実現されたものであり、本学のシンボルであるクスノキをモチーフとする木造物を配した個性的な学習空間として、平成25（2013）年度に設置、平成26（2014）年4月から提供が開始されました。

学生グループの議論や意見交換の場として活発に利用されており、主体的・能動的な学習を促す多様な学習の場となり、大学における教育支援の新たな役割を担うようになっていきます。

図書館名	施設	利用対象者	利用可能人数	備考
附属図書館 (いずれも 休館日は閉室)	ラーニング・コモンズ	学内所属者	100名程度	会話可能
	学習室24		140名まで (自習スペース99席、なごみ41席)	月～木 : 10～翌朝9時 金・祝前日 : 10～22時 土日祝 : 10～19時
	共同研究室		4～20名程度×5室	会話可能
	メディア・コモンズ		45名まで (シアター13席含む)	音楽や映画鑑賞、語学学習など可能
	サイレント エリア		146名まで	静かに集中して学習するエリア。 PC、電卓など音の出る機器は使用不可
	研究個室	本学大学院生・教職員	14室	
吉田南総合図書館	環 on	学内所属者	40名程度 * グループ学習室 (吉田南構内関係部局所属者: 8名程度)を含む	会話可能
医学図書館	グループ学習室	医学部及び 関係部局所属者	8～12名程度×3室	会話可能
	小閲覧室		4名程度×2室	
	セミナー室		24名まで	

● 問い合わせ先

- 附属図書館
w3adm1_660@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp 075-753-2632
- 吉田南総合図書館
eturan61@mail.adm.kyoto-u.ac.jp 075-753-6525
- 医学図書館
medlib@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp 075-753-4323



◆ 全学共通科目 「大学図書館の活用と情報探索」(2単位)

図書館機構が学術情報リテラシー教育の一環として提供する正規の授業科目です。平成10（1998）年に当時の長尾眞総長と附属図書館の発案により「情報探索入門」として開講されて以来、履修した学生からの高い評価を受けて、継続して実施してきました。

図書館機構長による講義に始まり、情報学研究科、人間・環境学研究科、薬学研究科、附属図書館研究開発室といった、

所属や専門分野の異なる教員がリレー形式で講義を担当します。パソコンによる検索や、実際に図書館資料を利用する演習も組み合わせた構成となっており、担当教員との連携の下、若手を中心とする図書館職員が演習問題の作成や実習のサポートをしていることも大きな特徴です。

学生の情報活用能力がますます求められている中、情報環境の変化や大学教育におけるニーズに内容に対応させつつ、授業を提供しています。

◆ 全学体制での利用者支援

平成23（2011）年度に「図書館機構による学術情報リテラシー教育支援の方針」が定められました。この方針に基づいて全学的なリテラシー教育支援を行うため、各図書館・室の協力連携体制を整備しているところです。

新入生向けにはオリエンテーションや利用ガイダンス、図書館ツアー等を行っており、さらに進んだ内容としては、KULINE や各種データベースの使い方、文献収集法などの講

習会を行っています。また、教員からの依頼により、授業の時間を使って図書館についての講習会を行うなど、必修科目の1コマを担当している学部・大学院もあります。

京都大学で契約・購入しているデータベースの講習会も開催しており、複数のキャンパスでの同時開催、附属図書館と関係する部局図書館との共同開催など、分野によって関係するキャンパス・学部と連携して開催しているのが特徴です。

◆ 学習サポートデスク 国際化・多様化する学生への支援（附属図書館）

平成25（2013）年10月に、附属図書館内に学習サポートデスクを開設し、日本語を母国語としない留学生や、その他多様化する学生のニーズに対し、図書館が学習支援を行っています。

スタッフは留学生を含む京都大学の大学院生で、日本語・英語に加え他の言語でも対応しています。留学生には英語等で図書や論文の探し方を説明して、円滑な学習・研究活動を手助けし、他には英語での図書館ツアーを行うなどして、書庫を含めた図書館の使い方全般を案内しています。また日本

人学生にも、レポートやプレゼンテーション資料に関してアドバイスを行うなど、身近な先輩として相談に乗っています。平成26（2014）年4月25日にラーニング・コモンズがオープンしてから、ラーニング・コモンズ内に移設しています。



附属図書館学習サポートデスク

◆ 学習室24及びメディア・コモンズ（附属図書館）

利用環境の整備と学習支援機能の強化を図るため、平成26（2014）年度に学内予算措置を受け、学習室24及びメディア・コモンズ等の施設、設備をリニューアルしました。空間デザインや什器選定等において、附属図書館の教職員と工学研究科建築学専攻・工学部建築学科の学生及びデザインスクールの教員が協働して取り組みました。



附属図書館学習室24

- 学習室24：学習スペースの空間全体について快適性を向上させ、机等の利便性も高めました。また、リラクゼーションスペースには、一部分組換可能な机を新たに設置し、多様な利用形態に対応しています。
- メディア・コモンズ：利用人数に応じたゾーニングを行い、各種メディアを活用したアクティブな学習空間となるよう、機能を付加しました。また、AV機器はデジタル対応の最新機種に更新し、かつネットワーク配信型コンテンツに対応するため、新たなPCを設置、新規DVDタイトルを購入し、映画、ドキュメンタリー、語学学習等の映像コンテンツを拡充しました。廊下側に一連の木製造作棚を設置し、CD・DVDを一体的に配架することで、メディア利用空間としての性格を明確にしました。

知的成果の蓄積・発信

◆ 京都大学学術情報リポジトリ「KURENAI」

京都大学図書館機構では、京都大学の研究・教育成果（学術雑誌掲載論文、学位論文、紀要論文、科研費報告書など）を社会に発信する「京都大学学術情報リポジトリ（KURENAI）」を構築し、平成18（2006）年からインターネット上で公開しています。

本事業を通じて、図書館機構は本学の中期計画「京都大学学術情報リポジトリKURENAIや京都大学研究資源アーカイブのコンテンツ登録・発信の推進、学術標本資料データベースの作成等により、附属図書館や総合博物館等における学術・情報資源を充実させる。」のうちの、図書館にかかる計画を実現し、また本学の研究活動や研究者を広く社会にアピールしています。

平成25（2013）年度からは、文部科学省「学位規則の一部を改正する省令」（2013年3月）を受け、博士学位論文の全文データをインターネット公表することが原則となり、これま

で以上に多くのデータをKURENAIでご覧いただけるようになりました。

本文登録件数も、平成28（2016）年3月に14万件を突破しました。

京都大学学術情報リポジトリでは、今後も多様な研究分野の論文等を積極的に収集・発信し、本学の研究成果により一層アクセスしやすくなるように努めてまいります。

● 京都大学学術情報リポジトリ「KURENAI」

<http://repository.kulib.kyoto-u.ac.jp/dspace/>



● 問い合わせ先

denjo660@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp



◆ 京都大学オープンアクセス方針の採択

京都大学は、平成27（2015）年4月28日に「京都大学オープンアクセス方針」を採択し、京都大学の教員が生み出した学術論文等の研究成果をKURENAIによりインターネット上で原則公開することを教員の義務としました。

研究成果をオープンアクセスとすることは、研究者間のコラボレーションを促進し、研究分野を超えた新たな知の創出に道を開く大きな力となり、また同時に学術研究に従事する者が社会に対して果たすべき説明責任を明確に出来ると考えます。

京都大学は、全学方針の採択により、大学としてオープンアクセスを推進する姿勢を明らかにし、より多くの教育・研究成果を広く公開することで、学術研究の発展に寄与するとともに、大学としての社会的責任を果たしていきます。

● オープンアクセスについて

<http://www.kulib.kyoto-u.ac.jp/content0/13087>



◆ 京都大学重点戦略アクションプラン 「オープンアクセス推進事業」

京都大学は、「京都大学の改革と将来構想（WINDOW 構想）」を実現するため、第三期中期目標期間中に戦略的・重点的に実施する事業として、「京都大学重点戦略アクションプラン（2016-2021）」を策定しました。この中の事業のひとつ「オープンアクセス推進事業」は、前述の「京都大学オープンアクセス方針」をより実質化するための事業です。

● 京都大学の改革と将来構想（WINDOW 構想）

<http://www.kyoto-u.ac.jp/window/>



この事業では、研究成果及び保有する一次資料のオープンアクセスを推進し、研究支援機能の向上を図るため、以下の取り組みを進めます。

- (1) 学術論文等の研究成果公開の推進と世界的展開
- (2) 貴重資料等の一次資料の電子化と公開
- (3) 国内外の調査を踏まえたオープンアクセスや研究データに関する研究
- (4) データキュレーターとしての図書館職員の育成
- (5) オープンアクセスや研究公正に関する情報リテラシー教育活動

この事業により、学術論文をはじめ、多様な研究情報を世界に発信することは、WINDOW 構想における研究の国際化推進、イノベーションの創出に寄与するものです。

◆ 貴重資料の電子化と公開

京都大学図書館機構では、学術・文化の発展に貢献するため、貴重な古典籍・古文書をはじめとする学術資料の電子化とインターネット上での公開に取り組んでいます。国宝『今昔物語集（鈴鹿本）』や重要文化財40点をはじめ、これまでに電子化した資料は約4,000点に及び、国内でも有数の規模を誇ります。

本事業は毎年継続的に実施しており、平成27（2015）年度は、『毛詩抄』（一般貴重書）1点を修復し、電子化・公開しました。
<http://edb.kulib.kyoto-u.ac.jp/exhibit/i246/i246cont.html>

● 主な電子化・公開資料

国 宝：『今昔物語集（鈴鹿本）』

重要文化財：『兵範記』など40点

貴重書：『國女歌舞妓繪詞』『天正遣欧使節肖像画』など

● 図書館機構にて電子化した資料（平成27（2015）年度）

- 国文学研究資料館の「日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク構築計画」事業により、附属図書館谷村文庫等の貴重書19点を撮影・電子化。
- 高麗大学校民族文化研究院、本学人文科学研究所及び附属図書館の協定事業により、附属図書館河合文庫の資料約2500点を撮影・電子化。



国宝『今昔物語集（鈴鹿本）』



『漢楚軍談画巻物』

● 京都大学電子図書館貴重資料画像

<http://edb.kulib.kyoto-u.ac.jp/exhibit/index.html>



貴重書の修復

京都大学では、国指定の国宝・重要文化財をはじめ多くの貴重な古典籍・古文書等を所蔵しています。これらの中には、長い保存年月と利用により、虫損や劣化が著しい資料も少なくありません。こうした傷みの激しい資料について緊急性の

高いものから順に、教育・研究資料として活用に耐えうる状態にすることを目的に、計画的に修復事業を行っています。

平成27（2015）年度は「貴重資料修復計画」第1期の5年度目として、以下の資料の修復を行いました。

● 文学研究科

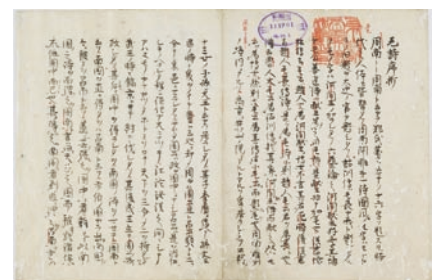
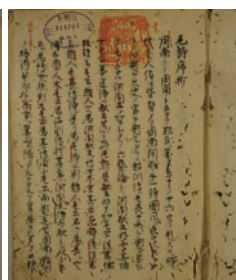
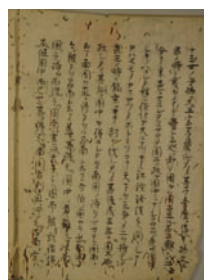
『海瀬舟行図（海辺之絵図）』1枚
奈良絵本『ふん正』2冊

● 人文科学研究所

『唐釈教文』12冊

● 附属図書館

『毛詩抄』20冊



修復された資料

京都大学所蔵のおもなコレクションをご紹介します。

I. 附属図書館

◆ 国 宝

『今昔物語集（鈴鹿本）』 巻2, 5, 7, 9, 10, 12, 17, 27, 29 計9冊 平安末鎌倉初期写

◆ 重要文化財

『萬葉集（尼崎本）』	巻16 1帖 平安末鎌倉初期写 紙本墨書
『古今集注』	巻1～15, 17（欠巻16, 17末～20）2帖 藤原教長撰 仁治2年鎌倉中期伝 二条師忠筆 紙本墨書
『兵範記』	長承元年～承安元年 49軸 兵部卿平信範記 紙本墨書
『範國記』	長元9年 春秋冬記 1軸 平範国記 紙本墨書
『知信記』	天承2年 春記 1軸 平知信記 紙本墨書
清原家家学書	34種 紙本墨書
『幼学指南鈔』	巻7, 22 2帖 平安末期写 紙本墨書

◆ 特殊文庫

附属図書館	維新特別資料文庫	吉田松陰の遺墨を中心とし、『奇兵隊日記』や大久保利通自筆『三藩盟約書草案』、平野国臣のこより文字など、幕末から明治維新の勤皇志士達に係る多数の資料。
	大塚京都図コレクション	大塚隆収による江戸期から近代に至る京都に関する地図の体系的コレクション470余枚。現存する本邦最古の京都市街地図『都記』（通称『寛永平安町古図』）を含む。
	河合文庫	793部（2,160冊）の朝鮮文書類と典籍。文学博士河合弘民が朝鮮史の研究に資するために収集した蔵書。
	菊亭文庫	菊亭家家記、特に家業の音楽書を主軸として有職故実に関する文書・記録。西園寺実兼の四男兼季を遠祖とする菊亭家相伝の文書・典籍を収集した蔵書。
	旭江文庫	大賀寿吉旧蔵のダンテに関する原典や新聞、雑誌の断簡3,000冊の集書。
	近衛文庫	漢籍の他、宇津保物語、落窪物語、大鏡等の古写本。陽明文庫の設立時に、近衛家から3,150冊の典籍が本学に寄贈。
	島田文庫	明治時代の仏教学者島田蕃根が島田家伝世の文書記録に、蕃根自身の収書を加えた、図書480点よりなる修験道文献の特異な集成。
	蔵経書院文庫・日藏既刊本・日藏未刊本	京都蔵経書院の旧蔵本。明治38年4月より大正元年にわたって蔵経書院が刊行した『大日本續藏經』の底本となった仏典類と真宗関係の仏書。
	新聞文庫	元大阪新聞社記者中神利人旧蔵の、幕末より第二次世界大戦の初期に至る我が国の諸新聞とその類縁資料。
	清家文庫	明経道清原家に伝わった経書ならびに日記・秘伝を中心とした収書。清原家家学書34種は重要文化財指定。うち、『孝子傳』は本館設立60周年記念事業の一つとして複製し、広く紹介。
	谷村文庫	大正・昭和の実業家谷村一太郎旧蔵の和漢書9,200冊の稀書。新村出博士の縁で本学に寄贈され、『光明皇后願經』『伝桓武天皇写經』など多彩な資料を含む。
	陶庵文庫	本学創設当時の文部大臣で、本学の設立に尽力した西園寺公望公爵（雅号：陶庵）の愛蔵書680部（8,046冊）。
	中井家絵図・書類	京都の宮大工棟梁中井家旧蔵の御所、二条城、諸寺社等建築関係の図面、古文書、地図など。177冊、2,276枚。
	中院文庫	中院通規伯爵の旧蔵書、文書記録を含む典籍1,041冊。通村、通勝の万葉集、古今集等の勅撰和歌集をはじめとし、源氏物語、伊勢物語等自筆の訓注、評釈等の精粋な資料を含む。
	平松文庫	公家西洞院時慶を遠祖とする平松家伝世の3,100余冊の集書。朝廷の儀式典例、日記に貴重なものが多い。『兵範記』『範國記』『知信記』の3点は重要文化財指定。他に真名字本平家物語を含む。
	富士川文庫	明治以前の和漢の医書と江戸中期以後主として幕末期の西洋医学の翻訳書。医学博士、文学博士富士川游が『日本醫學史』の編纂のため収集した蔵書。
	宮崎市定コレクション	宮崎市定名誉教授旧蔵の地理書と古地図。1561年刊行のヴェネチア版ポトレミー地図帳、1550年に木版筆彩されたミュンスターの新世界図などを含む。
	イスパニア文庫	イスパニア国最高学術研究会議の配慮により、昭和25年同国政府より寄贈された学術図書1,300余冊。
	ロールズ・シリーズ	英国中世の公文書、記録類の集大成724冊。Rolls Seriesと称されるのは、Master of the Rollsの監修のもとに編纂されたことによる。

Ⅱ. 部局図書館・室

◆ 特殊文庫（重要文化財を含む）

文学研究科	池田文庫	京都府与謝郡宮津町の実業家池田孫七氏寄贈の語学・文学・社会学・芸術など広範囲にわたるロシア語文献コレクションである。2,159冊（言語学）。
	額原文庫	本学部教授（国語学国文学）であった額原退蔵博士旧蔵の国文学関係のコレクションである。同教授の専門であった俳書の版本をはじめ、写本も数多い。6,040冊（国文学）。
	桑原文庫	本学部名誉教授（東洋史学）桑原隲蔵博士旧蔵の東洋史関係のコレクションである。博士の専門が東西交渉史であったことから、洋書も多く含まれている。12,457冊（東洋史学）。
	クラーク文庫	本学部教師（英文学）であったEdward B Clarke氏旧蔵の英文学関係書のコレクションである。5,133冊（英文学）。
	西田文庫	本学部名誉教授（哲学）西田幾多郎博士旧蔵の哲学関係図書のコレクションである。同教授の書き入れ本も多い。1,627冊（哲学）。
教育学研究科	小西文庫	本学第9代目の総長であった小西重直博士の旧蔵書で、1940年代以前のわが国における教育原理に関する貴重な資料が多い。482冊。
	高橋文庫	高橋俊乗博士の旧蔵書で、江戸時代末期を中心とする教育思想に関する図書を含み、教育思想史の研究上欠くことのできない収集である。1,364冊。
法学研究科	ハチェック文庫	ドイツの国法学・行政法学者 Julius Hatschek（1872-1926）の旧蔵書。ワイマル憲法下において活躍し、ドイツとイギリスの比較法の専門家としてイギリス公法の研究においても大きな業績を残したハチェックのコレクションであるため、公法学に関する図書が多く、なかには哲学・史学の図書が含まれている。2,113冊。
	ターナー文庫	ドイツの民法学者 Friedrich Thaner の旧蔵書。教会法関係の書籍が多く、ドイツ民法典成立以前は、教会法がドイツの家族法の役割を果たしていたため、ドイツ法史研究上学術的価値が極めて高い資料が多数含まれている。2,643冊。
	トゥール文庫	ドイツの民法学者 Andreas Von Thur（1864-1925）の旧蔵書。19世紀から20世紀に出版された歴史法学以降の私法関係図書を多く所蔵している。1,933冊。
	イエシエック文庫	ドイツのマックス・プランク外国・国際刑事法研究所所長を務めた刑事法学者 Hans-Heinrich Jescheck（1915-2009）の旧蔵書。ドイツなど主要なヨーロッパ諸国の刑事法に関する基礎的資料を、中世から現在に至るまで広くカバーした貴重なもの。とりわけ19世紀の諸外国の立法に関する資料など、国内において参照することが殆ど不可能な文献が相当程度含まれ、まさに稀覯書コレクションというべきものである。572冊。
	小早川文庫	京都帝国大学教授で法制史学者の小早川欣吾（1900-1944）の旧蔵書。日本法制史に関する基礎的な文献のほか、特に江戸時代の古文書・古記録や明治時代の文献が多く含まれる。2,455冊。
経済学研究科	上野文庫	元朝日新聞社主 上野精一氏と元社主 上野淳一氏の寄贈書で、内外の新聞とジャーナリズム・マスコミ関係書の一大コレクション。政治学・経済学・哲学・歴史学に関する貴重な文献も多い。約27,000冊。
	河上文庫	京都大学経済学部教授であった河上肇の旧蔵書を、1969年に学部創立50周年を記念して寄贈を受けたもので、図書の他に、講義ノート、原稿が含まれる。約2,700冊。
理学研究科	数学教室貴重書コレクション	16～20世紀の数学関係の洋書（267点）と、江戸時代の和算書、天文学、暦書等（597点）のコレクション。864点。
	理学部中央図書室貴重書・準貴重書コレクション	16世紀～20世紀にかけての博物学、地質学、化石学、貝類学等に関する和洋のコレクション。586冊。
工学研究科	ジョサイア・コンドル建築図面（重要文化財）	明治期に英国より来日して鹿鳴館やニコライ堂など多くの設計に関わり、日本近代建築の父と呼ばれたジョサイア・コンドル博士の建築図面468枚。建築系図書室所蔵。



『宇津保物語』



法学部図書室所蔵「イエシエック文庫」

理学部中央図書室貴重書・準貴重書コレクション
"Account of voyage of discovery to the west coast of Corea, and the Great Loo-Choo Island" by Basil Hall. 1818

吉田南 総合図書館	林 文 庫	1939年10月 第三高等学校 林森太郎教授より寄贈を受けた国文学関係の和書88点。
	溝 淵 文 庫	1939年7月 第三高等学校 溝淵進馬教授より寄贈を受けた教育学・哲学関係の和洋図書1,224点。
アジア・ アフリカ 地域研究 研究所	アイユーブ・ コレクション	元テンプル大学教授マフムード・アイユーブ博士の個人蔵書。イスラーム学関連図書コレクションで、アラビア語約1,700冊、ヨーロッパ語約1,000冊からなる。
	モイーヌッディーン・ アキール博士所蔵 ウルドゥー語文庫 コレクション	カラチ大元教授モイーヌッディーン・アキール博士の旧蔵書で、南アジア・イスラームの歴史・政治・社会・文学・思想・宗教など幅広い書籍を含む。蔵書数2万点を超え、ウルドゥー語コレクションとしては、大英図書館に次いで世界第2の規模。
	京 都 大 学 学 士 山 岳 会 文 庫	京都大学学士山岳会・国際登山探検文献センターの旧蔵書。アジア・アフリカ地域を中心とした学術探検登山に関する幅広い資料が含まれている。約4400冊。
	カーク・グリーン・ コレクション	カーク・グリーン・コレクションは、オックスフォード大学などで研究を行った第一級のアフリカ研究者カーク・グリーン博士のコレクションの一部。ナイジェリアをはじめとするアフリカの歴史、民族社会、政治、経済などに関する貴重な資料。
人文科学 研究所	サン＝シモン、 フーリエ文庫	19世紀前半に活躍したフランスの社会主義思想家アンリー・サン＝シモン(1760～1825年)とシャルル・フーリエ(1722～1837年)の著書・パンフレット類・研究書。前者の関係が93部、後者の関係が54部。
	矢 野 文 庫	故京都大学名誉教授矢野仁一博士が1944年「現代支那」研究班の代表者として蒐集した和漢洋書421部、697冊。1958年1月に寄贈された。
	村 本 文 庫	元大阪朝日新聞社員村本英秀氏(後に中田と改姓)より1941年1月に寄贈された漢籍837部、8,484冊。文庫の内容は、中国の伝統的な書籍分類法である四部(経・史・子・集)分類のほぼ全てにわたる。
	中 江 文 庫	中江丑吉氏の旧蔵書で、歿後中江善後委員会より1944年9月に寄贈された、漢籍355部6,037冊、社会科学に関する洋書478部728冊、および、1996年に阪谷芳直氏より寄贈された、手稿等61点、書簡245点から成る。
経 済 研究所	マッケンジー文庫	ライオネル・マッケンジー ロチェスター大学名誉教授の蔵書で、数理経済学関係書を主としたコレクション1,495冊。2003年10月に寄贈された。
東南アジア 研究所	チャラット・コレクション	タイ政府関係者 Charas Pikul 氏の旧蔵書約9,000冊。うち葬式配付本(Nagsue Ngan Sop)と呼ばれる重要人物の葬儀に際して刊行される出版物約4,000冊が含まれており、タイ国外で最大規模のコレクションである。
	フォロンダ・コレクション	フィリピン史学者 故 Marcelino Foronda 教授の旧蔵書約7,000冊。イロコス地方の歴史・文学・民族誌をはじめ、マルコス政権下の禁書・地下出版物やカトリック各種祈祷書など、フィリピン研究に重要な諸資料が含まれている。
	オカンボ・コレクション	フィリピン歴史学者・作家 Ambeth Ocampo 氏旧蔵書約1,000冊。19世紀後半から20世紀初頭フィリピン史関連出版物、カトリック各種祈祷書や議会記録等の政府刊行物が含まれている。
地域研究 統合情報 センター	British Parliamentary Papers (京セラ文庫「英 国議会資料」)	英国上院・下院に提出された法案、省庁報告、各種委員会報告等の集大成、いわゆるブルー・ブックの原本約1万3千点(18世紀～1986)のコレクション。本文庫は元々英国商務省が所蔵し、世界で最も欠本率の低い、ほぼ完全なセットとして知られたものである。京セラ株式会社が国立民族学博物館・地域研究企画交流センター(当時)に寄贈し、同センターの廃止再編に伴い、京都大学地域研究統合情報センター(本拠点)に移管された。附属図書館にて原本を公開している。また下院文書についてはオンライン版を導入している。
	Turkestanii sbornik (トルキスタン集成CD版)	19世紀～20世紀初頭にかけてロシア帝国が収集した中央アジア関連の刊行物コレクション全594巻のデジタル複製版。単行本、雑誌論文、新聞記事、統計、地図、図版など1万3千点を越える多様な資料から、当時のロシア帝国の中央アジアへの関心のありようや、今日なお重要な中央アジアに関する基礎情報を知ることができる。オリジナルはウズベキスタン国立ナヴァーイー記念図書館所蔵で、同センターの教員も協力し現地にてデジタル化された。その結果作成されたデジタル複製版は当初、国立民族学博物館・地域研究企画交流センター(当時)が所蔵していたが、同センターの廃止再編に伴い、京都大学地域研究統合情報センター(本拠点)に移管された。本拠点では独自に書誌情報整備を進め、データベースを公開、コレクションそのものの研究を進めながら、これを素材に歴史資料データベースの地域情報学の新展開も模索している。
	マレー語定期刊行物 コレクション	脱植民地化期・建国期の東南アジアにおけるイスラム運動の動き、とりわけ多民族・多宗教状況におけるイスラムの価値の受容・定着・拡大の過程を民衆の視点から理解するための歴史資料として重要な一次資料群。マイクロフィルム53リールおよびデジタルデータ(CD)53枚により構成されている。
	石井米雄京都大学 名誉教授蔵書 コレクション	本コレクションは、1965年から1990年まで京都大学東南アジア研究センター(現東南アジア研究所)に奉職された石井米雄京都大学名誉教授[1929-2010]の旧蔵書(図書および文献資料)およそ1万点余りのコレクションである。このコレクションには、タイの伝統法である「三印法典」「タイ年次法集成」、東南アジア交易史および各国史(ビルマ、カンボジア、インドネシアなど現地語図書)、Mission Pavieをはじめとする暹羅学院インドシナ植民地関係資料、タイ王朝年代記・碑文資料、仏教、政治経済関係資料、キリスト教および世界宗教、「華夷変遷」など東南アジアと日本(琉球・沖縄)の関係史資料、各種学会誌、言語学、語学書とテープ(Mon、中国、ハングル、タイ系諸語[シャン、クーン]、ビルマ)、そして各種事典辞典などのレファレンスがある。さらに、ラテン語版から時代の異なる邦訳版の聖書や、多くの言語学関係の文献が含まれている。文献資料の言語は、タイ語、ビルマ語、クメール語、ラオ語、モン語、シンハラ語の東南・南アジア諸語、独仏伊をふくむ印欧語などにおよぶ。稀覯本としては、東南アジア関係ではBastian、CabatonやHalletの原典初版数十点がある。
放射線生物 研究センター	原 爆 文 庫	武部啓名誉教授が幅広く収集され放生研に寄贈された約300冊の原爆に関する資料。京大でも原子爆弾の研究が進められていたことは、平成27(2015)年6月25日の京都新聞記事で明らかにされた。1995年にアメリカでは原爆50周年に多くの図書が出版されたが、そのほとんどがここに収集されており、貴重な文書を含んでいる。



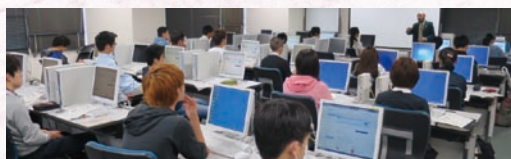
統計 (平成27年度)

図 書 館 ・ 室	蔵 書 冊 数		受入図書 冊 数	受入雑誌 種 数	開館日数	入館者数	貸出総数
	総 計	うち開架図書 冊 数					
附 属 図 書 館	944,620	167,202	11,965	1,646	342	1,018,310	170,446
附 属 図 書 館 宇 治 分 館	71,624	17,410	1,629	238	235	13,019	1,874
吉 田 南 総 合 図 書 館	683,804	108,666	17,228	883	265	229,323	91,766
文 学 研 究 科	1,111,996	6,011	14,772	2,446	222		68,773
教 育 学 研 究 科	183,157	170,872	2,153	622	227	15,930	12,951
法 学 研 究 科	728,448	21,749	8,577	1,109	266		17,484
経 済 学 研 究 科	578,751	26,818	4,484	1,039	264	49,157	15,145
理 学 研 究 科	247,833	218,822	4,785	1,172	237	70,152	29,031
医 学 研 究 科	223,771	158,288	3,135	634	287	59,422	7,117
(医 学 人 間 健 康 科 学 系)	26,267	16,821	499	181	218		7,747
薬 学 研 究 科	34,269	8,139	127	26	235	14,126	1,062
工 学 研 究 科	325,063	148,682	3,448	901	232	27,577	16,250
農 学 研 究 科	261,623	77,838	4,132	1,746	235	63,493	12,416
エ ネ ル ギ ー 科 学 研 究 科	10,443	6,636	123	58	237	1,398	305
アジア・アフリカ地域研究研究科	135,913	13,855	1,930	26	219	1,435	2,944
情 報 学 研 究 科	57,292	23,614	672	72	239	10,577	6,219
地 球 環 境 学 堂 ・ 学 舎	9,898	9,302	342	37	227	2,511	907
人 文 科 学 研 究 所	610,584	7,190	7,282	1,504	214	5,025	5,056
再 生 医 科 学 研 究 所	4,497	4,497			239		
基 礎 物 理 学 研 究 所	90,824	90,736	559	58	239	1,222	2,018
経 済 研 究 所	81,990	119	664	599	228	8,415	784
数 理 解 析 研 究 所	101,484	47,807	1,374	463	231		1,650
原 子 炉 実 験 所	54,202	47,810	380	102	237	2,275	593
霊 長 類 研 究 所	27,921	27,921	664	127	239		447
東 南 ア ジ ア 研 究 所	194,301	194,301	4,365	338	230	2,306	3,696
生 態 学 研 究 セ ン タ ー	16,825	16,825	513		221		185
地 域 研 究 統 合 情 報 セ ン タ ー	59,398		2,902	38	210	475	174
フィールド科学教育研究センター	15,967	(森林系)	99	162	48	154	206
	5,491	(瀬戸臨海)	7	205	225		
計	6,898,256	1,637,931	98,810	16,432	6,748	1,596,302	477,246

(注) 附属図書館宇治分館は、化学研究所・エネルギー理工学研究所・生存圏研究所・防災研究所の蔵書数等を含めた数

(注) 吉田南総合図書館は、人間・環境学研究科・高等教育研究開発推進センター・総合生存学館・国際高等教育院・物質・細胞統合システム拠点の蔵書数等を含めた数

講習・ガイダンス・オリエンテーション・展示



全学共通科目「大学図書館の活用と情報探索」



医学研究科
新大学院生向けガイダンス
(基礎第1講堂)



新入生向け
全学機構ガイダンス
(院生対象)



新入生向け
全学機構ガイダンス
(学部生対象)



新入生向け
全学機構ガイダンス
(留学生対象)



吉田南総合図書館
グレート・ブックス読書会
(環on)



吉田南総合図書館
15分ガイダンス-CiNii
(吉田南総合図書館)



農学部図書室
留学生ガイダンス



農学部図書室春のホン祭り



附属図書館
Lecture Series 第14回



2016 (平成28) 年11月発行
編集・発行：京都大学図書館機構
〒606-8501 京都市左京区吉田本町
TEL.075-753-2691 FAX.075-753-2629

最新の情報を随時、ウェブサイトに掲載しております。
<http://www.kulib.kyoto-u.ac.jp/>



適切に管理された森林から
切り出された木材を使用しています
森林館環境